

山城地域の府立学校の再編整備に係る説明会等の概要

京都府教育委員会は、昨年 12 月に、生徒数の減少により高校の小規模化が進む中、活力ある多様な教育活動が行えるよう、山城地域の府立高校 12 校のうち 4 校を対象にして、それぞれの高校の伝統や校風を継承させ、特色のある 2 つの高校に再編整備して、将来に向かって更に発展させる計画を公表しました。

また、養護学校につきましては、宇治市・八幡市・城陽市及び久御山町の 3 市 1 町に知的障害と肢体不自由の児童生徒が共に学ぶ総合養護学校を整備したいと考えていること、更に、総合養護学校としての桃山養護学校のあるべき姿について検討していることなどを公表しました。

これらの計画を進めるに当たり、府民の皆様の御理解を得ながら進めていくことが大切であることから、これまでに、山城地域の全ての小・中・高校・養護学校の保護者の方々へリーフレットを配付したほか、府民説明会や学校の P T A・同窓会・後援会・学校評議員の皆様との懇談会を開催し、直接ご説明し、多くのご意見をいただきました。以下にその主なご意見についてお知らせします。

なお、同じ趣旨のご意見については、1 つにまとめるなどの編集をしていますので御了解いただきますようお願いいたします。今後とも府民の皆様の御理解を得ながら、具体的な計画を策定して参りたいと考えております。

山城地域の府立学校再編整備府民説明会（高校の部）

- 1 日 時：平成 17 年 1 月 22 日（土）
 - 2 会 場：（南会場）福祉センター相楽会館 10:30 ~ 12:00
（北会場）京都府総合教育センター 13:30 ~ 15:00
 - 3 対 象：一般府民
 - 4 参加数：（南会場）約 180 名 （北会場）約 250 名
-
-

主な意見

（再編の時期について）

- ・再編の対象校はどこか。実施年度はいつか、具体的に明らかにされたい。
- ・噂や憶測が流れる。大きな改革だからスピードアップしてほしい。
- ・統合にあたり、メリットとデメリットがあるものとする。心配な面を十分検討し、フォローして頂くようお願いしたい。

（高校の適正規模について）

- ・一定規模のもとで切磋琢磨することが色々な能力の向上につながり、子どもの発達にとって必要である。8 学級程度の規模があれば十分生徒のニーズに応えられる。
- ・小規模化でクラブの数が減っている。いろいろな潜在能力を発揮できる環境を整えるには一定の規模が必要。
- ・吹奏楽などは、相当数の部員がいないと大会に出場できないので、これから生徒数が減少し部員が少なくなり部活動に支障をきたすことが心配。
- ・8 学級でも構わないが、7 学級、6 学級でもいいのではないかと聞いている。6 学級の学校は校内が落ち着いていると聞いている。8 学級が適正という根拠がないのでは。
- ・自分の勤務校は現在 6 学級だが、教育活動を進める上では 8 学級程度あった方がよい。

- ・適正規模 8 学級程度は全国と比べ突出している。
- ・1 学級 40 人を前提に再編すれば、30 人学級ができなくなるのではないか。
- ・4 クラスの中で 3 年間過ごすことと、適正規模の 8 学級で 3 年間過ごすのでは生徒 1 人 1 人の成長の度合いが大きく変わってくる。そういう意味で改革は必要であり、非常に重要。
- ・生徒数が減ると学校が安定する。クラスについても小さな教室に生徒を詰め込むより少人数授業をしていくほうが好ましい。
- ・8 学級程度あれば、選択科目の設置や部活動の多様性などの面から、生徒のニーズに応えることができる。

（高校の特色について）

- ・施設、設備に多少予算がかかっても立派な学校を是非お願いしたい。立派な施設ができて、立派な教育内容が作られ、生徒・教員が誇りをもてる学校整備を行うことは大きな意味がある。
- ・理科離れに対応し、この機会に理数系の学力をつけさせる高校をつくっていただきたい。
- ・例えば、山城福祉高校のように名前を聞けば特色がわかるような高校にしてほしい。また、フリースクール的なものなど特色が明確な高校が必要。
- ・クラブ活動に力を入れる学校、生徒の主体性を大事にする学校など、多様な校風をもった学校がある方がよい。
- ・再編整備の直接の対象となる 4 校だけでなく、全ての高校が良くなるように進めてほしい。
- ・再編を機に、不登校の生徒も高校教育が受けられるような制度を作してほしい。
- ・青少年が希望を持ちにくい時代、希望の持てる特色ある学校をつくるべき。
- ・新しいものを作り出すこの機会に、設備面でも新しく充実したものを作ってほしい。

（再編の手法について）

- ・後輩のいない学校で部活動や、学校行事をしていくと沈滞してくる。
- ・過渡期には対象となる 2 つの高校が連携・交流するなど在校生に寂しい思いをさせないように配慮してほしい。
- ・在校生や受験生に不安を与えないように、今後十分に検討して進めてほしい。
- ・統合の際、募集停止方式で実施するのか、一気に統合していくのか。
- ・統合実施の際、従前の学校の学力に応じた内容が保障されるのか。

（高校への入学について）

- ・友達との関係等から近くの高校を希望する者が多い。近い高校だからこそ行事や部活動に参加できる。
- ・近くに高校があっても小規模で希望するクラブ活動が行われていないのでは意味がない。目的を持って進学できる学校づくりを進めてほしい。
- ・改革に期待感も不安感もある。特色ある高校づくりが高校のランク付けにならないか危惧する。
- ・平成 16 年度から選抜制度が改善され、頑張ればどの高校にも行けるようになった。再編整備と相まって今後の学力の底上げにつながることに期待している。
- ・普通科希望の生徒が多い中で、総合学科や専門学科をたくさん作ると普通科が減り、山城地域の中学生が入学しにくくなるのではと心配している。

府民説明会におけるアンケート意見（高校の部）

主な意見

- ・学校再編は地元、現場の声を良く聞いて実施してほしい。
- ・少人数制によるきめ細かい指導が生徒の学力向上、学校の活性化につながる。
- ・特色ある高校を目指すに当たり、その特色が見えてこない。もっと府民に特色をアピールしてほしい。
- ・いち早く対象の4校を、またその理由を子どもたちにわかりやすく説明してほしい。
- ・もっと特色ある学校づくりを希望する。クラブが十分にできる学校、理数系を目指す学校、文系を目指す学校など。
- ・この改革に係る予算についてどう考えているのか。再編の2校とそれ以外の高校へどういう分野、項目で予算がつけられるのか。
- ・高校再編が行われると受験の競争率が今以上に高くなりそうに思う。
- ・クラス数を減らさず、クラス定員を減少させたらよいと思う。
- ・学級規模は8クラスが適正と言っているが、高校現場からは6クラスで安定し落ち着いてきたという意見もある。適正規模8学級の根拠は何か。
- ・小中連携が進む中、プラン21に沿った京都方式のすばらしい改革及び広報を望む。
- ・生徒減少に伴う再編整備は今後の各学校の充実のために重要。学校数を減らすことにより、1つの学校の中身を充実していくことが予算的にも可能となるのでは。
- ・統合の移行期にも在校生の勉強に支障のないような方法で再編をお願いする。
- ・通学の利便性と安全の確保は当然であるが、遠くても選べる、なるべく多くのニーズに応えられる特色ある学校をつくってほしい。
- ・地域ごとに説明会を行う中で、市民、関係者の声を聞く場を持ってほしい。
- ・交通の不便な地域の子どもの権利が行使できる再編を考えてほしい。
- ・再編計画は5～6年計画で進めて話を煮詰めてほしい。
- ・地元高校に行けないのは、不安を増加させ、地域の教育力低下につながる。
- ・一定の教育水準を保障するためには十分な教員配置や施設の整備が必要である。
- ・施設的にも再編して良かったと思われる学校を期待する。
- ・統合や募集停止を行う場合、実施の3年前までに具体的校名、募集人員、設置学科の詳細を告知・説明してほしい。在学中に募集停止を知ることは避けてほしい。
- ・市町村ごとに、もっときめ細かい説明を是非してほしい。
- ・40人学級で10クラスぐらいの方が良い。元気のいいしっかりとした高校づくりをお願いする。

山城地域の府立学校再編整備府民説明会（養護学校の部）

- 1 日 時：平成17年1月22日（土）
 - 2 会 場：京都府総合教育センター 15:30～17:00
 - 3 対 象：一般府民
 - 4 参加数：約200名
-
-

主な意見

（養護学校の再編について）

- ・府民の意見・要望を吸収した上で新しい養護学校を建設して欲しい。
- ・高校との併設にはメリットもあるがデメリットもある。
- ・特別支援教育のセンター的役割が果たせる立地条件のある所に養護学校を建設し

- て欲しい。
- ・思春期における母子分離のため、家庭以外で生きていく力をつけられるよう施設を整備するとともに、学校教育としてそうした力をつけて欲しい。
- ・養護学校を建設するために高等学校の発展的統合を行うのではないことを明確にして欲しい。
- ・200名規模の養護学校を考慮されているなら、再考して欲しい。
- ・城陽市に養護学校を建設して欲しい。
- ・養護学校は自主通学が可能な市街地に建設して欲しい。

(再編時期について)

- ・高校の再編を待たずに必要な養護学校は早急に建設して欲しい。

(再編後の養護学校への希望について)

- ・職業教育に役立つ学校にして欲しい。
- ・高等部の3年間に加えて、あと2年間職業教育を受けられる学校を建設して欲しい。
- ・既設の養護学校の教育の積み上げをベースにした教育内容にして欲しい。
- ・学校の中だけではなく、地域社会の中で通用する力をつけて欲しい。
- ・給食は栄養士を配置し、給食室で作ってください。
- ・通常学級に在籍する軽度発達障害のある子どもを支援する養護学校にして欲しい。
- ・再編後の養護学校でも地域とのふれあい・交流を密にして欲しい。

(その他)

- ・障害のある子どもの放課後や休日の活動に公的な支援をして欲しい。
- ・今後も意見交換会などで、府民の意見を反映させる機会を作って欲しい。

府民説明会におけるアンケート意見(養護学校の部)

主な意見

- ・市町村や医療機関との連携、行政内でも福祉との連携をとりながら計画を進めてほしい。
- ・新設養護学校を早期に設置して欲しい。
- ・宇治市に養護学校を設置して欲しい。
- ・八幡市に養護学校を設置して欲しい。
- ・宇治、城陽、八幡市それぞれ一校ずつ必要。
- ・地域と交流する機会が自然に持てるようにすべき。
- ・子どもたちの視点に立って、子どもたちが「学校に行きたい」と思うような学校づくりを目指して欲しい。
- ・特別支援教育を推進していくための特色ある養護学校をつくって欲しい。
- ・小規模かつ地域密着型の養護学校にして欲しい。
- ・教員の専門性向上のためにもある程度生徒数は必要だと思う。
- ・立地については安全で自主通学の可能な市街地がよい。
- ・散歩や買い物学習など校外へ出ることができるよう環境にも配慮して欲しい。
- ・高校との併設もいいと思う。

- ・ 寄宿舍を単に通学保障という観点だけでなく、教育の保障という位置づけで整備して欲しい。
- ・ 福祉を充実し、寄宿舍を作らなくても良い学校にして欲しい。
- ・ 新しい学校の教室は自閉症や病弱の子どもにも対応できる環境整備が必要。地域のモデルとなるような設備配備をして欲しい。
- ・ ランチルーム・プレイルーム等特別教室を大切にして欲しい。
- ・ 学童保育や部活動の充実した養護学校を作って欲しい。
- ・ 教員の専門性の向上を目指し、子どもの実態にあった教育が進められることを望む。
- ・ 文化行事等心を豊かにする情緒教育を大切にして欲しい。
- ・ 現在の養護学校は療育の先生とクラスの先生の連携が悪く、専門性が高いとは言えない。
- ・ 異校種間の異動を積極的に行うことで、教員の指導力の充実を図って欲しい。
- ・ 高等部においても作業学習中心ではなく、障害にあった形での基本的な学習も大切にして欲しい。
- ・ 地域に密着した育み教育と将来を展望した教育（職業指導）を考えて欲しい。また、企業等を招致することも考えていく必要がある。
- ・ 高等部卒業後の進路選択が充実する支援体制を整えて欲しい。
- ・ 高校にある進路支援教員を養護学校にも適用して欲しい。
- ・ 絵本創りやお菓子類の製造、販売等の具体的構想を入れて、養護学校が地域に根ざしたものとなり、オープンな学校となるように創り上げて欲しい。

山城地域の府立高校再編整備に係る報告・懇談会

- 1 日 時：(南会場) 平成17年2月8日(火)
(北会場) 平成17年2月9日(水)
 - 2 会 場：(南会場) 京田辺市立中部住民センター 19:00～20:30
(北会場) 宇治市生涯学習センター 19:00～20:30
 - 3 対 象：山城地域の高校関係者（PTA会長、同窓会長、後援会長、学校評議員）
 - 4 参加数：(南会場) 23名 (北会場) 39名
-
-

主な意見

(再編の時期について)

- ・ 来年急に再編となると、子どもたちの夢を摘むことになるので、ある程度何年か前に公表してほしい。
- ・ できるだけ早く公表していかないと、噂が飛び交い中学校の進路指導に影響する。

(高校の適正規模について)

- ・ 1学年8クラスというのが一番良い規模ではないかと思う。合理的に質の高い教育をするための条件は何かという視点も大切だ。
- ・ きめ細かい指導となると1クラス40人の定員は多くないか。
- ・ 中3生数がピーク時に比べ半数近くになったことで、好ましい学級数を作っているという考え方なのか。

(再編の手法について)

- ・高校が再編される際、1年生から募集を順次止めていくのか。1年から3年生全ての生徒がいる中で合併みたいな形態をとるのか。どちらも一長一短があると思う。
- ・4校が2校になる際、どのような統合の仕方をするのか。また名前が残っていくのか。
- ・学校の良い部分を継承し1校にする場合、年次により募集定員を減らし学校が残ったままで、最後にどこかで1校になる手法が良いのではないか。

(再編整備について)

- ・生徒数が減少する中で学校数を減らすことは仕方がないと思う。ただ、小規模な高校が新しい試みとして特色化を進めている中で、合併・再編によりその灯を消さないでほしい。
- ・今回示された3つの特色は、4校を新しい2つの高校に再編する際、どのように実現するのか。また他の高校はどのようになるのか。
- ・山城地域は中心部に木津川が流れており、東と西で文化が異なる。鉄道の路線から見ても異なり、通学の問題がネックとしてあるのではないか。
- ・再編整備の趣旨は理解するが、学校の歴史等も踏まえて検討願いたい。
- ・再編整備をする際、在校生や卒業した生徒が満足するような、また十分な高校生活を送ることができるよう進めてほしい。
- ・在校生の教育環境に対する配慮が最も必要。クラブ活動等で公式戦に出場できないようなことにならないようお願いしたい。
- ・文化とは異文化と交流してどんどん発展していくものである。伝統文化を融合してより素晴らしい伝統文化へ導くことも考えて再編すべき。
- ・本を読むことによって色々な発想が開けてくると思われる。読書を重視した教育も考えてほしい。
- ・平成16年度から山城地域の南・北通学圏が廃止され、生徒の交流が促され非常に効果があったと思うし、この状態で高校再編を進めて頂きたい。
- ・再編計画を発表した時、その計画に対する関係者の意見を集約するシステムを考えられてはどうか。

3つの特色

平成16年12月府議会での府教育委員会 武田教育長答弁より

- (1) 国際社会で活躍できる人材の育成を目指す専門性の高い教育
- (2) 京都らしい伝統文化を生かし、未来の文化の創造を目指す教育
- (3) 豊かな未来社会の形成に寄与する福祉マインドを涵養する教育

南部地域における養護学校の再編整備に関する説明・懇談会

- 1 日 時：平成17年2月14日(月)
 - 2 会 場：京都府総合教育センター 14:00 ~ 16:00
 - 3 対 象：南部地域の養護学校関係者(P T A会長等、学校評議員)
 - 4 参加数：14名
-
-

主な意見

- ・養護学校の再編整備のために高校を統廃合したと言われないようにするためにも、高校の再編とは別であることをもっとアピールするべきである。

- ・小・中学校では学校選択制が広まってきているが、養護学校でも通学区域にこだわらず、選択制を取り入れてはどうか。
- ・新設学校を作るなら自前のスクールバスを持って欲しい。
- ・給食はクックチルではなく、学校で作る方式にして欲しい。
- ・新設学校を作るならば学童保育を併設できないか。
- ・地域の小・中学校と物理的・心情的に交流できる環境が必要。
- ・職業教育は高等部卒業後にすべき。そのためにも卒業後、就労の力を付けるための訓練校のようなものが必要。
- ・総合養護学校では重度の子どもを中心とした教育内容になりがちなので、軽度の子どもにも社会に出ていく力を付ける教育を重視してもらいたい。